



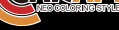
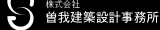
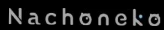
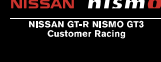
NILZZ

RACING FACTORY

FUJI GT 350KM RACE

2024 AUTOBACS SUPER GT Round.4 RACE REPORT

カテゴリー	: SUPER GT SERIES 2024 GT300 クラス	公式練習	: 1'40.895 (GT300 クラス 27 位)
エントラント	: NILZZ Racing	公式予選 Q1	: 1'40.324 (GT300 クラス B 組 13 位)
カーナンバー	: 48	公式予選 Q2	: 1'41.445 (GT300 クラス Gr.2 10 位)
マシン名称	: 脱毛ケーズフロンティア GO&FUN 猫猫 GT-R	公式予選	: 1'41.445 (GT300 クラス 26 位)
ドライバー	: 井田太陽 / 真田拓海 / 伊藤鷹志	決勝	: GT300 クラス 22 位 (67 周)
開催地	: 富士スピードウェイ (静岡県)		
開催日	: 2024.8.3~2024.8.4		
天候	: 晴れ (8.3) 晴れ (8.4)		
イベント動員数	: 20,600 人 (8.3) / 31,600 人 (8.4)		





SUPER GT 第4戦”FUJI GT 350KM RACE”が8月3日から4日に静岡県の富士スピードウェイで開催。今季2回目の富士スピードウェイでのレースに、NILZZ Racing は今回井田太陽、眞田拓海、そして今回がSUPER GTデビューとなる伊藤鷹志を起用した。

8月3日(土) 公式練習

前回の鈴鹿大会から約2ヶ月のインターバルを経て迎えた第4戦。

天候には恵まれたが、強い日差しによって気温は上昇し、朝から非常に暑いコンディションとなった。

9時00分から行われた公式練習では、まず井田がマシンチェックの為に周回を行い、その後連続周回を行なった。

セッション中盤からはセッティングを進めるべく、周回を重ねていく。

セッション後半のGT300専有走行、その後のFCYテストやサーキットサファリでも、セッティング変更やその評価のため、積極的に周回を重ねた。

今回の公式連数はGT300専有走行で眞田が記録した1分40秒895がチームベストとなり、GT300クラス27位という結果となった。

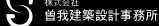
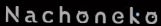
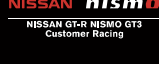
8月3日(土) 公式予選

直前に行われたFIA-F4のレースでコース上に出たオイルの処理により5分遅れで開始となった公式予選。

このオイル処理によるコースコンディション悪化を考慮し、今回の予選は今季初のウェットフォーマットで行われることが決定された。

今回Bグループに組み込まれたNILZZ RacingのQ1アタックドライバーは眞田が担当。

14時30分、予選Q1Bグループのセッションが開始。





酷暑のコンディション下でピットに留まるチームもある中、セッション開始直後からコースインした眞田。周回を重ねるごとにタイムを縮めていく眞田は5周目の計測で1分40秒908を記録。

次の周に1分40秒324まで短縮するも、予選Q1Bグループ13位で終了。

次の予選Q2はグループ2での出走が決定した。

15時23分から行われた予選Q2グループ2。

今回の予選で適応されたウェットフォーマットでは合算タイムを行わない為、この予選Q2グループ2では17位以降のグリッドを純粋なタイムで争われる。

NILZZ RacingのQ2アタックドライバーは井田。井田はコースイン後、ウォームアップを終えてアタックを開始。

周回ごとにタイムを縮めていった井田は最後の計測で1分41秒445を記録。

予選Q2グループ2は10位となり、この結果、NILZZ Racingは第4戦決勝レースをGT300クラス26番手から出走することが決定した。

8月4日(日) 決勝

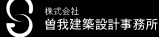
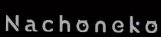
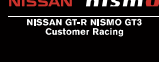
迎えた決勝日。真夏の好天によって、富士スピードウェイは非常に暑いコンディションとなった。

警察車両先導のパレードラップ、フォーメーションラップを終え、14時37分にSUPER GTシリーズ初となる350kmの決勝レースがスタートした。

NILZZ Racingのスタートドライバーを担当したのは井田。

序盤からトラブルやアクシデントが見られる中、井田は着実に周回を重ね、15周を終えると予定通り1回目のピットインを行う。

ここでは伊藤へのドライバー交代と給油のみを行い、戦線に復帰した。





伊藤は初めての決勝レースとなるが、自身のステイントを無事走破し、41 周目に 2 回目のピットイン。
眞田と交代し、タイヤ交換、給油を終えて再度戦線に復帰。

コースに復帰後は特に問題も無く周回を消化。

そして 67 周を終了したところでレース終了のチェッカーフラッグを受けた。

GT300 クラス 22 位という結果を残し、NILZZ Racing の第 4 戦富士大会は幕を閉じた。

猛暑の中でのレースということで、非常に厳しいコンディションの中でのレースとなりましたが、今回も完走することが出来ました。

次戦鈴鹿大会からシリーズ後半戦に突入することで、各レースにおいて、更に厳しい戦いになると思われます。

その中でも上位を目指して引き続き頑張ってまいります。

引き続き、皆様のご支援、ご声援を賜ります様、よろしくお願いいたします。

